

宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題 字 / 金森由利子)

第 9 号

発行人

〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 岡田幸助

目次

- 巻頭言 幹事挨拶……………1
- 第4回総会の開催
新役員の紹介……………2~5
- 定例研究会の概要……………5~7
- 「ミニ・茶話会」便り……………8
- 会員投稿 (向井田薫氏) ……9
- オペラ「ボラーノの広場」DVD鑑賞会…10~11
- 宮澤賢治記念短歌会報告
宮澤賢治センターからのお知らせ…12
- 特集 岩大生にとっての宮澤賢治…13~16

巻頭言



賢治さんに思うこと

宮澤賢治センター幹事 姉齒武司

宮澤賢治センター設立当初から、前代表の望月善次盛岡大学学長よりご教示を頂き、また現代表の岡田幸助先生のご指導の下、「賢治と音楽を楽しむ会」と定例会後の「茶話会」の担当をさせて頂いております。

「茶話会」に於いては、皆さんのお話しを通し、賢治さんの多角的な活躍の面を毎回伺っております。童話、短歌、岩石、地質、農業、肥料、音楽、教育、宗教、天文、気候、はては営業等々、研究対象は数えきれないほど多面的になっております。その中で賢治さんの作品の根底を流れる生命にたいする「優しさ」を感じ、それを「菩薩界」とする考えに同感いたします。賢治さんは高知尾智耀のすすめから文芸で法華経の普及を決意

したと言われております。それは賢治さんと言うと直ぐ出てくる代表的作品『雨ニモマケズ』を、「法華経」を通し生命を解明した天台大師の「摩訶止観」の「一念三千」の「十界互具」で読むと、その賢治さんの思いが伝わってくる様な気がします。私も以前定例会で発表させて頂きましたが、この短い文章に見事に「菩薩界」の「十界」が述べられていると思います。

生命は「地獄」、「餓鬼」、「畜生」、「修羅」、「人」、「天」、「声聞」、「縁覚」、「菩薩」、「仏」という「十界」が、瞬時も休むことなく変転し続ける当体であり、各界に「十界」が「互具」されていると述べられています。その賢治さんの「優しさ」が作品を通し、「縁」となり、読者の十界の生

命の「菩薩界」に働きかけ、生命の共鳴、共感が感動となるということです。

それは最新の脳科学で、ノーベル賞級の発見といわれるジャコモ・リゾラッティの「ミラーニューロン」にも述べられている通り、他のものの行動を見ていると、自身の脳に同じ行動を引き起こす働きが反射的に起きてくるというのです。それは行動のみでなく情動の分野にも、共感として起きてくると述べております。また、世界的動物行動学者のフランス・ド・ヴァーの近著『共感の時代へ』には、やはり生物界でも同じ様な共感から他を助ける情動、行動が多数例描かれており、生命体とは助け合うのが本来の生命の姿と論じております。

また、カール・セーガン博士

は『エデンの恐竜』に脳の成り立ちを大要以下の様に述べております。我々の脳の中心部分の脳幹周辺を「恐竜脳」といい、その脳幹の上に大脳(大脳辺縁系)が発生しこれを「動物脳」と名付け、さらにその上に「人間脳」といわれる大脳新皮質(前頭葉等)が出来、発生的に上層に重なる構造をなし、脳の中心部にいくほど自己保存、種族保存の働きが強く、原始的な情動、感情を働かす場所、中心部の脳が怒り、貪欲等で動くときその上にある動物脳、人間脳はその動きに翻弄される状態になると語って居ります。従って、人間脳による動物脳、恐竜脳のコントロールは大変な努力を要することです。

これは「十界論」にあてはまる面が非常に多いと思います。十界の下層をなす地獄、餓鬼、畜生、修羅の生命の、対応仕切れない様な圧倒的情動、感情は脳幹等が働く情動性と同じで、

また人、天、声聞、縁覚、そして菩薩界は自身をコントロール出来た人間脳の姿とも言えると思います。生命をより良くコントロールすることが重要であり、ここに現在世界を覆う利己的文明観の行き詰まりの解決の方途、仏教的捉え方の必要性があると思います。

翻って考えますと、現代社会の推進力は概ね個々人の欲望の満足度を最重要視する生命観(餓鬼界)と思えますが、他を助け共生の中に生命の充実感を重視する生命観(菩薩界)を目指す東洋的、仏教的生命観こそが、生物が持つ本来の生命の姿だ、と前述の諸氏は科学的立場で裏づけたと言えるのではないのでしょうか。その本来の生命観を賢治さんは作品を通し、我々の生命の「菩薩界」に訴えかけ、感動、共感と呼んできたのではないのでしょうか。

先月、経済同友会の総会で、GNP(国民総生産)からGNH(国民総幸福)へを主題にブータンの首相を呼び講演がありました。賢治さんの「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という文明観の世界へパラダイム・シフトし始めた姿とは言えないでしょうか。そう願っております。

宮澤賢治センター第4回総会 平成22年6月15日

平成18年6月1日の岩手大学開学記念日に発足した「宮澤賢治センター」も、月例の定例研究会を中心に多彩な活動を展開し、4年目を迎えました。6月15日、第4回総会が開催されましたが、次の事項が承認されました。新役員も別記の通り、決定しました。

1 2009年度事業報告(09年4月1日～10年3月31日)

- ・総会 7月7日(火)
- ・定例研究会 第31回4月24日(金)、第32回5月28日(木)、第33回7月7日(火)、第34回8月11日(火)、第35回9月9日(水)、第36回10月14日(水)、第37回11月13日(金)、第38回12月11日(金)、第39回2月15日(月)、第40回3月30日(火)
- ・第3回宮澤賢治学生短歌大会 1月23日(土)に表彰式
- ・宮澤賢治記念月例短歌会
- ・賢治と音楽を楽しむ会
- ・「経埋ムベキ山」登山 9月21日(月)
- ・「アザリアの咲くとき」展、列席者歓迎会 6月1日(月)～19日(金)
- ・「銀河の誓いin葦崎・アザリアの友たち」 10月11日(日)
- ・「宮澤賢治センター通信」第7号・第8号発行 8月1日(土)・3月24日(水)

2 2010年度事業計画(10年4月1日～11年3月31日)

- ・総会 6月15日(火)
- ・定例研究会 第41回4月16日(金)、第42回5月27日(木)、第43回6月15日(火)、第44回7月26日(月)、第45回8月5日(木)、第46回9月10日(金) 今後原則として毎月1回開催する。
- ・第4回宮澤賢治学生短歌大会
- ・宮澤賢治記念月例短歌会
- ・賢治と音楽を楽しむ会、オペラ「ボラーノの広場」DVD鑑賞
- ・「経埋ムベキ山」登山
- ・「宮澤賢治センター通信」第9号・第10号・第11号発行 7月・11月・3月の発行予定
- ・その他

3 役員を選出

新役員紹介

賢治とわたしのかすかな関わり



岩手大学
理事・副学長
大塚 尚寛

この度、宮澤賢治センターの理事を務めさせて頂くことになりました大塚尚寛と申します。どうぞよろしくお願い致します。

先日、センター代表の岡田幸助先生から、理事就任に当たった抱負や、賢治との関わりなどを寄稿して欲しいとの依頼を受けました。しかし、実は、恥ずかしいことに、私は全くの理系人間で、賢治の作品に詳しくはありません。賢治センターの会員の皆様は、賢治の作品を多数読まれ、賢治の生涯にも造詣が深いことと拝察します。私にとって、大変な役を引き受けてしまったものだ、と反省しておりました。しかし、思わぬところで賢治との関わりがありました。それをご紹介させて頂きたいと思えます。

まず一つ目は、故岩田純蔵先生です。先生は、私が岩手大学に採用になった昭和55年当時、

工学部電子工学科の教授でいらっしゃる方です。賢治の甥に当たるご子息で、賢治の甥に当たる方が、偶然にも私と同じ11月26日で、その日生まれが、当時工学部には私を含め四名おりました。そこで、四人で会を作り、毎年誕生日に集まっては、楽しく飲んだものです。その時に、岩田先生がお話しされる内容は、星座の話や宇宙のこと、そしてご本人の研究テーマの「人工頭脳」のことでした。その穏やかな話しぶり、現世を超越したような宇宙観、そして、コンピュータ一色になりつつある時代に「人工頭脳」。また、賢治の膝に抱かれて物語を聞いた思い出。どれもこれも私にとって、大変貴重な経験になっています。

二つ目が、『東北砕石場』です。賢治が、晩年勤めていた所として有名です。今は廃業になっていますが、その砕石場には、大学院博士課程の学生時代に研究用のサンプル収集のために、何度か足を運びました。先日、NHKで『賢治のサラリーマン時代』を放送していて、賢治は、自分も通った『東北砕石

場』の営業マンとして、文字通り命をかけて頑張ったんだな、と感慨もひとしおでした。以上のように、かすかではありますが賢治と関わりがある(?)と自負しております。これからも、皆様と共に学んでいければ幸いです。

宮沢賢治と私



岩手大学国際交流
センター教授
岡崎 正道

私は岩手大学で、外国人留学生に対する日本語・日本事情の教育を本業としています。世界各国から来た留学生たちに日本の文化・歴史・社会問題などを講義し、この国に対する認識を深めてもらえるように努めています。その中で、盛岡および岩手大学にもゆかりの深い宮沢賢治という人物についてもぜひ知ってほしいと願い、授業で取り上げています。2年前に人文社会科学研究科を修了したあるロシア人女子学生は、宮沢賢治そのものを研究対象に選び、修士論文を書き上げました。

私は大学・大学院では日本思想史学を専攻し、明治維新期から昭和前期にかけての政治思想史を研究分野としていました。

宮澤賢治センターの規約と役員・事務局名簿

宮澤賢治センター（岩手大学内）規約

第1条 名称

この会は、「宮澤賢治センター（岩手大学内）（以下、「本会」という。）」と称す。

第2条 目的

本会は、宮澤賢治についての多くの関心を結集し、会員相互の交流を促進して、賢治研究の普及と発展に努めることを目的とする。

第3条 事業

前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 定例研究会
- (2) 全国宮澤賢治学生大会
- (3) 会員の主催する賢治関連企画
- (4) その他必要な事業

第4条 会員

宮澤賢治について関心があり、本会の目的に賛同する者は誰でも会員になることができる。なお、会費は当分、徴収しない。

第5条 役員

本会に、次の役員を置く。

- (1) 代表 1名 本会を代表し会務を総括する。
- (2) 副代表 1名 代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 理事 若干名 役員会の構成員として、会の運営の審議に当たる。

2 任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、連続任期は3年までとする。

3 各役員は総会において会員の中から選出する。選出方法の詳細については、別に定める。

第6条 事務局

事務局に事務局長、事務局次長、幹事を置く。

- (1) 事務局長 1名 日常的な会務の処理・運営上の調整等を行う。
- (2) 事務局次長 2名 事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 幹事 若干名 会の実務を処理する。

2 事務局長、事務局次長は、役員会において互選する。

3 幹事は、役員会において会員中より推薦し、代表がこれを委嘱する。

4 事務局を岩手大学百年記念館に置く。ただし、日常的な連絡場所は、岩手大学地域連携推進センターとする。

第7条 総会

総会は、代表が招集する定例総会を年1回開催する。なお、役員会の決定または会員の三分の一以上の要請があれば臨時総会を開くことができる。

2 総会の議長は、代表が務める。

3 総会の議決事項は次のとおりとする。

- (1) 事業報告
- (2) 事業計画
- (3) 規約の制定及び改正
- (4) 役員を選出及び改選
- (5) その他必要と認められる事項

第8条 役員会

役員会は、代表、副代表、理事、および事務局長、事務局次長によって構成し、必要の都度開催して次の事項を審議する。

- (1) 総会の付議事項
- (2) 会員の入会及び退会
- (3) 本会の業務遂行上、緊急かつ重要な事項
- (4) 総会で決定した事項の具体的運営について
- (5) その他、必要と認められる事項

第9条 事務局会議

事務局会議は、代表、副代表、事務局長、事務局次長、幹事によって構成し、日常会務及び役員会の議題の整理等を行う。（付則）

この規約は、2007年10月11日から施行する。

平成22年度宮澤賢治センター役員・事務局名簿

(平成22年7月8日現在、アイウエオ順)

代表	岡田 幸助 a	岩手大学ミュージアム研究員
副代表	森 三紗 b	岩手大学教育学部卒業生
理事	池田 成一 c	岩手大学人文社会科学部教授
//	石田 紘子 c	深沢紅子野の花美術館館長
//	大塚 尚寛 c	岩手大学副学長
//	岡崎 正道 c	岩手大学国際交流センター教授
//	木村 直弘 c	岩手大学教育学部教授
//	小島 聡子 b	岩手大学人文社会科学部准教授
//	佐藤 竜一 c	岩手大学大学教育総合センター特別講師
//	柴田 良輔 a	岩手大学教育学部学生
//	鈴木 幸一 b	岩手大学地域連携推進センター長
//	武田 純一 c	岩手大学農業教育資料館館長
//	羽倉 淳 c	岩手県立大学ソフトウェア情報学部准教授
//	橋本 裕之 b	盛岡大学文学部教授
//	早川 浩之	岩手大学地域連携推進センター専門員
//	向井田 薫 c	岩手大学農学部北水会名誉会員
事務局長	佐藤 竜一	理事兼任
事務局次長	早川 浩之	同上
幹事	姉齒 武司	岩手大学工学部卒業生
//	亀井 茂	岩手大学農学部附属農業教育資料館研究員
//	菊地 慧子	岩手大学地域連携推進センター主事

- 任期 a 2011年3月まで
- b 2012年3月まで
- c 2013年3月まで

近代化・富国強兵への道をひた走る明治国家日本、その中で宮澤賢治は生まれ成長し、そして思想形成を行なっていきました。国家・社会と個人の関係のありかたを模索し、理想的な世の中の形姿を追い求めて苦悩した知識人は数多く存在しますが、賢治もまたそうした人間のひとりでした。

童話作家・詩人・農業指導者・教師・熱烈な日蓮宗信徒：というように多面的な顔を持つ賢治ですが、彼の脳中においては、やはり国家発展の陰で取り残され、貧困と苦難に呻吟しながらも懸命に生き抜く農民たちの姿に對する、熱いシンパシーが常に脈打っていたと思われま

私は宮澤賢治の文学や思想を専門的に研究しているわけではありませんが、近代日本を代表する人物のひとりとして、賢治には大きな関心を有しています。彼が残した言葉の中で、「まづもろともにかがやく宇宙の微塵となりて無方の空にちらばらう」（農民芸術概論）と「諸君はこの颯爽たる諸君の未来圏から吹いて来る、透明な清潔な風を感じないのか」（生徒諸君に寄せる）という2つが大好きです。

今後宮澤賢治センターの理事として、微力を尽くしたいと念

じています。何卒よろしくお願
い申し上げます。

賢治の可〈塑〉性



岩手大学
教育学部教授
木村 直弘

理事就任にあたって佐藤事務
局長から執筆依頼された自己紹
介の話題は、「私にとつての賢
治（音楽面から）」というもの
でした。ここでは敢えて、二〇
〇七年一月定例研究会でお話し
させていただいた際まずご紹介
した詩人・荒川洋治の詩「美代
子、石を投げなさい」冒頭を、
再度引用することから始めさせ
ていただきます。

宮沢賢治論が／
ばかに多い 腐るほど多い／
研究には都合がいい それだけ
のことだ／
その研究も／
子供と母親をあつめる学会も
名前にもたれ／
完結した 人の威をもつて／
自分を誇り 固めることの習性
は／
日本各地で／
傷と痛みのない美学をうんでい
る／
詩人とは／

現実であり美学ではない／
宮沢賢治は世界を作り世間を作
れなかった／
いまとは反対の人である／
このいまの目に詩人が見えるは
ずがない／

（以下略）荒川洋治『坑夫トッ
チルは電気をつけた』彼方社・
一九九四年より）

誰もが賢治を礼賛の口調で語
（騙）る風潮に、冷水を浴びせ
かけたことで有名になったこの
詩の言い分は、実は、アカデミッ
クな意味でプロパーの「賢治学
者」たちが事あるごとに「賢治
について語らず、賢治を出汁に
自分を語っている」と嘆いてみ
せるのと同根です。荒川はこの
詩でさらに「詩人を語るならネ
クタイをはずせ 美学をはずせ
椅子から落ちよ」と明確に断
じていますが、愚生の専門は、
『ジョバンニの耳』（風媒社、
二〇〇八年）他を上梓されてい
る西崎専一氏と同様、音楽「美
学」ですので、まさに矢面に立
たされていると言つても過言で
はないでしょう。その目には「詩
人が見えるはずがない」愚生が、
やはり賢治が作れなかった「世
間」の典型である当センターの
理事を依頼されても、極めて消
極的にしかお引き受けできなかつ
た理由の一つはそこにあります。

それでもそうした「専門外」
の愚生が臆面もなく賢治関連の
論文を書くことに駆られるのは、
ひとえに賢治の「可塑性」によ
ります。「可塑性」とは、物理
学用語としては、物体に力が働
き変形が起き、その力がなくなっ
ても変形したままの状態になる
性質のことですが、まさに「腐
るほど多い」賢治論は、「専門
家」の賢治学者たちの「目」に
は、まさに賢治像を「変形」さ
せたままにし学問的オーセンティ
シティを損なうものでしかない
と映っているかもしれません。
しかし、専門家に限らず、い
ろいろな人が自分なりの視点か
ら語（騙）ることができる賢治
は、思えば不思議な対象です。
荒川は「研究には都合がいい
それだけのことだ」と多くを語
らず流しましたが、「なぜ」賢
治は研究には都合がいいのか、
この問いは看過されるべきでは
ないでしょう。

この〈塑〉は、個々人によつ
て投影された全く異なる多様な
思いをその都度それに合わせて
反映させられるものとも謂いう
るでしょう。それは例えば人間
のようではない人間ではないとい
う、まさに現実と非現実、此岸
と彼岸を結ぶ媒介者としての性
質を孕んでいる存在でもありま
す。告白すれば、その「目に詩
人が見えるはずがない」愚生が
「見よう」としてきた対象は、
実は「詩人」でもその作品でも
なく、愚生にとつては、いわば
それらは媒介するもの、換言す
れば、それを通して別のどんな
対象にも焦点を合わせられそう
な一種の老眼鏡なのです。
「音楽科の教員」Ⅱ「音楽の
専門家」といった一般的なレッ
テルにはそぐわず、「音楽美学」
という音楽学と美学との「境
界」に「鶴」のごとく潜んでい
る愚生も、ある意味〈塑〉（デ
クノボー）でしょうし、賢治の
シャーマン性への興味もそうし
たことに由来しているのかもしれ
ません。

思えば、賢治関連の論文を書
き始めたのと老眼鏡使用とはほ
ぼ期を一にして始まりました。
きつと今後老眼鏡の度が増すの
に比例して、賢治やその作品に
対する興味も増すのかもしれない
せん。「詩人が見えている」会
員諸賢の多様な視角に触発され
ることを期待しつつ、皆様の御
指導御鞭撻を衷心からお願いす
る次第です。

賢治センター理事に就任して



岩手大学
農業教育資料館館長
武田 純一

この4月から、農業教育資料
館の館長を拝命致しました。就
任して間もなく、まだ右往左往
している状態ですが、何とぞ宜
しくお願い申し上げます。農学
部にながら普段はあまり資料
館に入ることなかったのです
が、各位の多大なるご努力によ
り1階の展示室には宮沢賢治ゆ
かりの資料の展示がなされ、改
めて存在の大きさを感じている
次第です。

さて、宮沢賢治と私の接点で
すが、高校までの国語の教科書
や文学書で賢治の作品に触れた
こと、先輩とコーヒーを飲み
に行った材木町の光原社や友人と
行ったイギリス海岸等々ありま
すが、一番の接点は、自啓寮の
住人であったことかも知れませ
ん。大学入試の時、今は自啓の
森になっているところに旧自啓
寮があり、高校の先輩がいたこ
ともあって部屋にお邪魔をし

定例研究会の概要

第40回 3月30日(火)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 岩手大学 大学教育
総合センター 佐藤 竜一氏

▽演題 「黄瀛(こうえい)
と宮澤賢治」

▽司会 山本 昭彦
参加者 25名。

黄瀛は宮澤賢治の詩を通しての友人です。二〇〇五年七月三〇日、中国・重慶でその生涯を閉じました。九八歳でした。つい五年前まで生きていた人です。

一九九六年八月、花巻市を会場に賢治生誕百周年記念事業として国際研究大会が開催されました。オーストラリア、ロシア、チェコ、アメリカ、インド、韓国などからやってきた研究者が賢治の魅力を語ったのですが、中国を代表して参加したのが黄瀛です。現在、中国でも賢治研究が盛んになっていますが、その種をまいたのが黄瀛でした。一九〇六年一〇月四日、黄瀛は中国人の父、日本人の母の間に重慶で生まれました。幼くし

て父が亡くなったために、母の故郷である千葉県八日市場で育ちます。日本語で自我を形成したのです。混血だったために、よく「アイの子」といわれはじめられたようです。東京の正則中学校を経て、青島日本中学校へ。この頃より詩作を始めます。

当時、『日本詩人』(新潮社発行)という雑誌があり、詩を書いている青年はこぞつてこの雑誌に投稿していますが、一九二五(大正一四)年、「朝の展望」と題する詩が第一席に輝きました。このことにより一躍、黄瀛は詩壇の寵児となり、高村光太郎、木下杢太郎、草野心平らとの交友が生まれます。中でも草野心平との関係は緊密で、草野が創刊した詩誌『銅鑼(どら)』に参加しています。

賢治との交友が始まるのはこの『銅鑼』を介してです。一九二四年詩集『春と修羅』、童話集『注文の多い料理店』を刊行した賢治ですが、ほとんど反響はありませんでした。とはいえ、数は少ないものの、賢治の才能を発見した人々がいたの



佐藤 竜一氏

です。草野や黄瀛たちです。『春と修羅』を友人から送られて読み、感動した草野は、賢治に『銅鑼』に参加しないかと誘いの手紙を書きます。賢治は承諾し、草野や黄瀛との文通が始まります。

その前後、すでに賢治と交友があった森荘巳池は東京外国語学校(現東京外国語大学)に進学。『銅鑼』の同人となっていました。荘巳池から賢治のことをあれこれ伝え聞いた黄瀛は、本人にぜひ会いたいと思うようになりしました。

一九二九年六月、その機会は訪れました。陸軍士官学校の卒業旅行で花巻温泉を訪れた黄瀛は合間をみて、人力車で賢治の家に向かったのです。賢治はまだその頃、病床にありましたが、黄瀛がわざわざ来てくれたのを聞いて起き上がり、一時間ほど話をしました。そのたった

一度の出会いには、「南京より」という追悼文として残っています。

国民党の将校という道歩んでいた黄瀛は、そのために不幸な生涯をたどりしました。私は一九九二年八月一〇日、重慶に訪ねた後、つきあいのあった人々への取材を重ね、一九九四年、『黄瀛―その詩と数奇な生涯』(日本地域社会研究所刊)を出版しました。これが日本で最初の黄瀛の評伝です。この本を書いたことで、私は賢治を真剣に読んでみようと思うようになったのです。

日本との関係が深かったために、黄瀛は二度にわたり投獄され、獄中生活は二〇年以上に及びました。そうした日々の中で心の支えとなったのは、日本の友人たちと培った友情でした。

一九七八年、不遇だった日々をピリオドが打たれました。中国が開放政策を採るようになり、日本語や日本文学を解する人材が必要とされるようになったのです。四川外語学院で教壇に立った黄瀛は、真つ先に賢治の作品を取り上げました。ここから、新中国での日本文学研究がスタートしました。そのことを知っていただけたら、と思います。

(佐藤竜一 記)

したが、入学時には、旧寮は跡形も無くなっておりました。賢治もこの寮にいたと聞き妙に感激したことを覚えています。入学後はできて間もない新自啓寮にお世話になることになりましたが、取り壊した旧寮で使われていた畳が植物園内に積まれており、部屋の先輩の指示で宵闇に紛れて新寮に運び込みました。新寮は4人部屋でしたが、皆で語り合えるスペースが無く、廃棄処分される運命であった旧寮の畳は、格好の語らいの場を提供してくれたのでした。親元を離れての初めての寮生活でしたが、幸い人間性豊かで尊敬できる寮生ばかりで、充実した4年間を過ごさせて頂きました。各種資料によれば賢治も全国各地から集まった寮生からいろいろと刺激を受けたようで、その後の人間形成に果たした寮の意義は大きいものであったことが推察されます。

資料館長は、自動的に賢治センターの理事に就任するのとありますが、責任の重さを感じつついろいろと勉強させて頂きたいと思っております。日々の仕事に追われる毎日で会議や研究会に参加できる回数は限られてくるとは思いますが、今後とも宜しくご指導・ご鞭撻のほどお願い致します。

第41回 4月16日(金)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 奥州市在住

原子内 貢氏

▽演題 「賢治作品と江刺の地質」

▽司会 佐藤 竜一

▽参考者 26名。

一、はじめに

賢治は岩手を理想的な環境であるとの思いを込めて、イーハトヴと呼んだ。

しかし、現実の岩手には冷涼な気候に追い打ちをかけるように、稲の成長期に冷たい海霧やマセが吹きつけて冷害をもたらす。さらに奥羽山脈の形成期に大量の火山灰が降下して酸性土壌となっている。この二つの問題を克服して理想郷となる。

私はヤマセが最も強い岩手県北の旧種市町で生まれ育った。気象観測をしながら、ヤマセと戦っている父の姿を見て育った。「雨二モマケズ」の詩にある「サムサノナツハ オロオロアルキ」を一般には『冷夏に襲われ、冷害に対してなすすべもなく肩を落として畦道を歩く農民の姿』と解釈しているようだが、本当だろうか？ヤマセが吹くときは水位を上げて寒風から稲を守り、少しでもヤマセが弱



原子内 貢氏

まり日が差し始めたなら水位を下げ、水温を上げる工夫をする。そのために、いつも畦道を歩き廻っている誠実な農民の姿ではないのか？そんな人に賢治はなりたかったのではないのか？少なくとも私の父はそうだった。

同じ詩の中にある「ヒドリノトキハ」は「ヒドリ」の書き誤りと解釈しているようだ。岩手には奥羽山脈と北上山地の山頂付近に巨大な天然ダムが形成されている。冬季の大量の降雪が少しずつ融けて平野を潤す。岩手の川は水位変化が少なく、湧き水も豊富である。極言すればヒドリによって農民は困ることがないのである。賢治の生きていた時代に、岩手の早魃被害は大正十三年だけで、それ以外は軽微なものばかりである。

賢治の時代には今のよう働く場も出稼ぎ仕事もなかった。

農家の次男・三男は少しの田畑を与えられて分家しても妻子を養えない。本家か大地主の所で働かせてもらって昼食にありつける。ヒドリ稼ぎをさせてもらって昼食にありつける。やがて、働く場が増えてきて、労賃を払って働いてもらうようになりテマドリ(手間賃稼ぎ)となっていく。これらの状況を考えると、賢治の書き誤りとするのは再考を要するのではないだろうか？

二、江刺の地質と賢治作品

① 保阪嘉内宛の葉書

賢治が大正六年九月二日に、伊手郵便局に投函した友人宛の絵葉書は、ほんの一部の研究者を除き、殆どの研究者は描いている山は種山らしいとしている。詩「種山が原」に「北上山地は：蛇紋岩や橄欖岩から」とあること、絵の中に蛇紋岩が強調され、馬も描いていることが根拠のようである。

ところが、種山には蛇紋岩がないのである。山が急傾斜で松も密集している状態も種山にはない。伊手の西にある銚子山は蛇紋岩からなる山である。山の形・傾斜・松・谷の形と方向・ふもとに馬が常にいた陣場など絵葉書と完全に一致する。

絵葉書は想像図ではない。スケッチした図であり、中心の山

は銚子山であると考えられる。

② 作品「十六日」について

夫は鉾山で働いて給料ももらっているらしい。家の前に谷川があり、向いの山が鉾山である。当時としては珍しく鉄索があり、鉾石を運んでいる。鉄索が動いていないと分かるのは鉄索が見えるか動く音の聞こえる場所である。川底に大理石が露出していることから、近くに火成岩もあって、石灰岩が熱変成を受けたのだろう。石灰岩が上流にも二、三カ所露出している。弱い熱変成のため、海百合の化石が残っている所もある。

県道(盛街道)を登っていくと姥石までさほど遠くない場所である。以前水車があった。集落の上流部にある離れた家である。これらの条件をすべて満たすのは奥州市江刺区米里字重王堂集落の最上流の川岸にあるT宅だけである。

③ 「泉のある家」について

手がかりは、実際に水が勢いよく流出している泉が存在するか？しかも下駄をはいてすぐいける場所(屋敷内?)にあるか？その泉は粘板岩の裂け目から湧き出しているか？断層泉と判断できるような場所か？人を宿泊させるほどの大きな家で、中の竈・七輪・お膳など旅館の機能があったかを検証した。その結

果、一致する場所が存在した。

さらに、作品に出てくる道路の方向や地形・地質について検証すると、県道が北に向かって下り坂になっていること。少し進むとサンプル採集した石英斑岩がなくなり、粘板岩に変わる。川に沿った細い沖積地があり、田んぼになっていること。これら的一致する。これらのことを総合すると火石のバス停留所付近のK宅が「泉のある家」のモデルと考えられる。

作品「十六日」のモデルと考えられる家から数百メートル北の所にこの家があり、作品中には「盆の十六日の次の夜なので・・」とあるのは、これを暗示しているかもしれない。(原子内貢 記)

第42回 5月27日(木)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 宮澤賢治センター代表

表 岡田 幸助氏

▽演題 「倉吉訪問記」

▽司会 岡崎 正道

▽参考者 26名。

今回の発表内容は既にセンター通信8号に報告してあるのでセンター通信8号を参照願いたい。

例会では倉吉訪問記のついて



岡田 幸助氏

にこの4月から公開されたホームページ「まるごとデジタルミュージアム」を実演紹介した。これは岩手大学情報メディアセンターの情報処理センター部門の厚井センター長を中心に作られたサイトで大変内容の濃いものである。このサイトには岩手大学ホームページのTOPページの左に並んでいるボタンから入る。いきなり黒板が出てきて岩手大学は宮澤賢治の青春を過ごしたキャンパスであるという紹介が始まる。次の画面ではまず宮澤賢治と小菅健吉、次いで下級生の保阪嘉内と河本義行の紹介がされ、この4人がアザリアの中心メンバーであったことを紹介している。

キャンパスツアーのページでは岩手大学構内にある見所を紹介している。キャンパスの鳥瞰図が出てきてそれぞれの番号を押すとその場所の紹介と3Dの体験ツアーができる。ボタンを操作するとあたかも自分がその場所に立っているような気分になる。実演では会場から歓声が上がった。

次はタイムトラベルである。年表が出てきて各年代に当時の代表的写真が並んでいる。それをクリックするとさらにアルバムの1ページが出てきて他の写真も見ることが出来る。これらの写真は岩手大学60周年の記念展示の折、全学部のみんなで集めたものである。

最後にイベントアーカイブで「アザリアの咲くとき」展の最終日に私が案内しているところをビデオ撮影したものを10分間に編集したもので、どのようなものが展示されていたかよく分かる。ナレーターの説もあって、展示会を開催することによって明らかになった新事実などが、ありのまま紹介されている。ぜひ、皆さんも自身のパソコンを開いてこのサイトを体験してほしいと思う。

ホームページの実演により、ちょうど1年前の記念行事の興奮がよみがえったところで、パワーポイントを用いて倉吉を訪問した時の様子を紹介した。その中で、河本緑石が俳句に読み、賢治が詩に詠ったキササゲ

の木の話題に及んだ。岩手大学正門を入ってすぐのところ植えてあったキササゲの木がなんと4月に伐採されてしまったのである。職員の方は単に邪魔な木と思って伐採したのであるが、キササゲの木は賢治ゆかりの木で、賢治を看板に掲げている岩手大学としては非常に大切な木であった。何と恥ずかしいことかと思っただ、切ってしまったものはしょうがない。旧正門の並木にもう1本キササゲの木が残っているので我慢しようと思っていた。

ところがある日、旧正門の巨木に「東北電力」と書かれたテープが巻き付いているではないか。慌てて、学長、植物園長、ミュージアム館長、メディアセンター長に「キササゲの木を守ってください」とメールを打った。その結果、テープを付けた木は伐採ではなく剪定であることが判明して胸をなで下ろしたところである。例会終了後、ミュージアムボランティアをしている方から正門の切られたキササゲの木から薬（ひこばえ）が出てきましたよと報告を受けた。ぜひこの薬を大切に育てて大学の大切な木として残してほしいと思う。

倉吉では緑石の没後、緑石の顕彰活動が続けられ、「アザリ



キササゲの薬（ひこばえ=切り株などの根元から生える新芽）

アのまち音楽祭」も28回を数えるそうである。記念展示で資料をお借りした時、緑石研究会会長の波田野頌二郎氏からオペラ「ボラーノの広場」のDVDが送付されて来た。これは2002年、文化庁などが主催した国民文化祭で上演されたもので大変な圧巻である。これを我が宮澤賢治センターの「賢治と音楽を楽しむ会」の2周年記念行事として5月29日に鑑賞することになり、ぜひ多くの方に見ていただきたいと思っている（本号10・11ページ参照）。

追記：正門のキササゲに薬が

出てきたことは前記のとおりであるが、薬を農学部事務の方が大切に手入れされた。先ほど見に行ったところ、なんと高さ160cmを超えていた。その成長の早いのに驚かされた。先週に見たときは無数の薬が出ていたが、丈夫そうなものを3本剪定されたようである。これから業者に依頼して支柱を添えるそうである。6月の雨を受けて元気に育つキササゲは賢治と緑石の友情を象徴するかのようである。将来、説明板を設置して大切に育てたい（6月30日記）。

（岡田幸助 記）

「三・茶話会」便り ——茶一話——

「宮澤賢治センター通信」で「ミニ茶話会」での様子を毎回載せて頂いており、今回もその様子の一端を紹介させて頂きま

す。
○「宮澤賢治と黄瀛」という題でのお話で、余り目にしない「瀛」という字の紹介があり、「黄瀛」は「こうえい」と読むと言うところから始まりました。講師のお話では、中国に於ける賢治研究の先駆けとし、また後輩の賢治研究者の方には王敏さんはじめ多数の方々が育っているという、そのような方の数奇な人生を教えて頂き大変に興味のあるお話でした。

黄瀛は、父が中国人、母は日本人で重慶に生まれ幼少期は日本で育った。中学時代から詩作を始め、当時の代表的詩誌の「日本詩人」で第一席となり、詩壇の注目を集め、草野心平等と交友が始まった。その頃、賢治はほとんど注目される存在では無かった。

しかし、その中で賢治に注目したのが、草野であり黄瀛であった。そして草野からの誘いで、賢治は草野が創刊した詩誌「銅鑼」へ参加することになった。



茶話会風景

た。
また、賢治へ関心を持っていた黄瀛は、1929年花巻で病床に伏せる賢治を初めて訪ねた。

その後、黄瀛は中国に渡り国民党の将校となり、第2次世界大戦後は大変な辛酸をなめ、そして四川外語学院教授として日本文学を教える様になった。黄瀛は日本文学の教授として賢治を取り上げ、中国での賢治研究が始まったという。大要以上の様な紹介でした。

草野や黄瀛が賢治を見出したともいえる訳で、また、中国での賢治研究も黄瀛から始まったと聞くと、賢治を見出した人々と賢治の「縁」と言うものもの

思議を思わずにいられませんでした。

○「宮澤賢治と江刺の地質」と題する話題は、新たに目を見開かせられる観点のお話の連続でした。はじめの「雨ニモマケズ」の解釈から、頭をガツンと殴られる様な思いでした。「サムサノナツハ オロオロアルキ」はヤマセの冷夏は、田圃の水管理で天（そら）を見ながら昼夜に関係なく、即対応に走る農民の姿であり、一般的な解釈の、冷夏でなす術もなくうろたえている姿ではないとの指摘。

また「ヒデリノトキハ」は賢治の手帳に書かれている通り「ヒドリ」で有り、それは「手間取り」のことを言うこと。それは特に本家や大地主が冷害に苦しむ部落の人々を助けるため、昼飯（手間）を与える為に仕事を頼む姿で、講師自身の体験から話す内容は、大変に説得力に富み迫力のあるお話でした。

講師は本家の息子として父の言いつけで手間仕事を頼みに行く時、父親から「道端に立っている人から声を懸けられても無視して目的の家にまっすぐ歩いていけよ、声をかけた人と立ち止まって話しをすると『手間仕事をさせてくれ』と頼まれ、断れなくなるから」と注意が有っ

たとのことで、その姿が目に見えるようで大変に心動かされる話でした。

また、賢治が嘉内に送った有名なハガキのスケッチは、種山ヶ原方面を観てのスケッチではなく、伊手地域から見た銚子山をスケッチしたもので、その地域の写真と賢治のハガキの絵を当て嵌めての説明に、これも納得という形でした。

また、「泉のある家」も賢治の文章と地図を照らし合わせ、だからこの家と特定した解説で、これまた再度納得という形でした。また賢治は蛇紋岩の中のレアメタルに当たるイリドミンを捜していたとか、本当に目まぐるしい、しかし、説得力のある話に、またもう一度ゆっくり解説をしていただきたいと声が出ました。賢治研究家の一つの形を見る思いで大変刺激的な楽しい一夜でした。

○「倉吉訪問記」としての話は、岩手大学賢治センターのホームページを中心にしたお話で、改めてホームページの内容に興味深いものを感じました。

また、岡田先生の今回の岩手大学に於ける「アザリアの友」に関する発掘や展示、また四人の家系の方々への働きかけなど、大変な貢献をなされたことは岩手大学の開学記念に相応しい

のと思っています。関係者の一員として感謝して居ります。

また、茶話会参加者から岩手大学の留学生の活躍の一つのエピソードが紹介されました。それはロシアからの留学生の報告で、岩手大学を卒業後サンクト・ペテルブルク文化芸術大学に於いて「雨ニモマケズ」を最初に日本語で、その後ロシア語で紹介したとき、聴衆から大喝采を受けたと言うことでした。

私は賢治さんの「雨ニモマケズ」に託した思いは、国は違っても人間としての共通な生命的共感を与え、感動することは世界中何処の人も同じなのだと思います。それは仏教の十界論的には菩薩界とも言える至高の生命を詩ったと言えるこの「雨ニモマケズ」を世界に紹介していければ、何処の国の人々にも感動、共感を与えることが出来、賢治さんの「世界がぜんたい幸福になりないうちは個人の幸福はあり得ない」という、お互いを思いやる世界をつくる一助になるのではないかと思えました。

(姉齒武司 記)



会員投稿

百年前に描いた保阪嘉内の「ハーリー彗星」

盛岡市安倍館町 向井田 薫
(会社役員・79歳)

宮澤賢治も保阪嘉内も、明治二九年（一八九六）、賢治が八月二七日、嘉内が十月十八日の誕生である。そして賢治は、明治四二年三月に花城小学校を卒業し、盛岡中学校に入学した。嘉内はこの年、葦崎尋常高等小学校高等科に入学し、翌年四月に山梨県立甲府中学校に進学したので、盛岡高等農林学校で賢治の一年後輩となった。

【ハーリー彗星の大接近】

甲府中学に入学した嘉内は、生徒達の噂を聞きつけ、放課後に校長室を一人で訪れた。大島正健校長は札幌農学校の第一期生として、クラーク博士から直接指導を受けていた。一年生が単身で校長室を訪れる勇氣に感動した大島校長は、「クラーク先生の話ならいつでも聞きに来たまえ。札幌農学校の話もして聞かせよう」と約束すると同時に、天文に詳しい英語科の野尻抱影（本名・正英）先生を紹介してくれた。

嘉内が入学した年には、彗星が地球に大接近して、全世界を驚かせていた。嘉内が野尻先生

を理科室に訪ねると、ハーリー彗星を説明してくれた。先生は「ハーリー彗星」と発音した。

英国の天文学者ハリ・エドモンド（1656～1742）は、海王星族の周期彗星であること、その軌道を計算して1682年の出現後は、1759年を予告し、それが見事に的中していたのである。野尻先生は、彗星に興味があるのなら、スケッチすることを勧めた。しかも、周辺の風景もちゃんと書き写すことも付け加えた。

「ハーリー彗星之図、五・廿夕八刻」のスケッチが保阪家に大切に保管されている。

画面の左から続く鳳凰三山に、薬師・観音・地藏の名が書き込まれ、一際急峻な駒ヶ岳を指す彗星が描かれ、その長い尾は薬師まで達している。

この頃、宮澤賢治は盛岡中学の二年生であった。この日の盛岡は天候が悪かったのか、彗星に関する記録は残っていない。

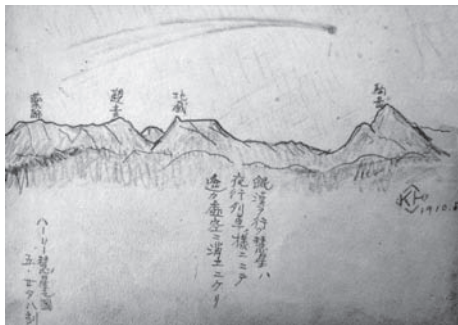
この年の十二月一日に、賢治と嘉内に大きな影響を与えることになる石川啄木の『一握の砂』が東雲堂から出版された。

これらは何れも、今から百年前の出来事である。

【甲斐の国・駒井村に憧れて】

私は昨年の四月に、賢治が憧れた駒井村（現・葦崎市）の保阪嘉内の生家を訪問することが出来た。皆様方の歓待を戴き、長男の善三様と次男の庸夫様からは貴重な資料を拝見させて頂いた。そして今年の五月、「ハーリー彗星百周年企画・保阪嘉内が見た星空」の案内状を頂いた。五月十五日、会場は甲府市舞鶴城公園内・午後六時半の集合である。

甲府中学校の寄宿舎跡、舞鶴城の高い石垣からの展望は、嘉内がスケッチしたそのものだった。折しも、夕日が甲斐駒ヶ岳の右下に沈んで行く。昨年四月に、庸夫様宅で直接拝見した感



嘉内がスケッチした「ハーリー彗星之図」

激が、思わず甦ってくる。

甲斐駒の彼方に沈む太陽に
惚ぶ嘉内の あの日の感激

咄嗟に浮んだ、一首である。

講演会は、葦崎市民コーラスの合唱で始まった。賢治の歌、嘉内の愛した歌五曲である。

講演は、保阪庸夫様の『嘉内の幼少時代』から始まった。「岩石や植物の採取が好きだった」のお話が印象的だった。

加倉井厚夫氏の『保阪嘉内が見たハーリー彗星』の講演は素晴らしかった。スクリーン一杯に映し出される彗星の分析に驚嘆するばかりであった。

配布された資料には、野尻抱影の年譜が記されていた。その中の一節、「大島正健の三女麗と結婚」が目を引いた。

【賢治と嘉内の出会い】

中学校だけは進学させてもらった賢治。五年生の一月に肥厚性鼻炎を患い、卒業と同時に岩手病院に入院した。

一方の嘉内は弁論部に入会する等、充実した中学校生活を送り、心酔していた大島校長の母校である東北帝国大学農科大学（現、北海道大学農学部）を受験したが、7月に不合格通知を受けた。石川啄木に憧れて盛岡

高等農林への進学を決めた嘉内は、大正五年四月十日の日記に次の歌を記して旅立った。

「やはらかに柳青める北上」
にわれむかはんと心勇めり

賢治と嘉内の初対面は、四月十四日、自啓寮の南寮九号室でと推定される。そして賢治は、二二日の土曜日に嘉内を盛岡中学校に案内した。「宮澤氏と盛岡中学のバルコンに立ちて天才者啄木を憶ひき夕陽赤し」保阪日記に初めて登場した宮澤の文字である。

これを機に二人の親交は深まり、文通も回を重ねて行く。そして『アザリア』が発刊された直後、大正六年七月十四・十五の週末に、二人だけで岩手山に登山した。真夜中に二人は満天の星空を眺めながら心の思いを語り明かした。

嘉内は野尻先生から聞いた天文学を話したと思うし、賢治はハーリー彗星の思い出を訊ねたと思いたくなる。

「銀漢ヲ行ク彗星ハ夜行列車ノ様ニテ遙カ虚空ニ消エニケリ」

百年前のこの一文が、名作『銀河鉄道の夜』に繋がったのでは？ と思えてならない。

オペラ「ポラーノの広場」DVD鑑賞会 「賢治と音楽を楽しむ会」2周年記念行事

「DVD鑑賞会開催の経緯」

岩手大学60周年を記念して昨年の平成21年6月1日、「アザリアの咲くとき」展が岩手大学図書館で開かれました。宮澤賢治、保阪嘉内、小菅健吉、河本義行らによる文芸誌「アザリア」の仲間の青春を紹介した展示で、多くの入館者に感動をもたらしました。その時、河本義行のふるさと鳥取県倉吉市から提供された資料の中にオペラ「ポラーノの広場」のDVDがありました。これは平成14年(2002)に鳥取県倉吉市で開かれた文化庁ほか主催の第17回国民文化祭で上演されたもので、大変な評判を得た作品です。このオペラを岩手県の皆様に賢治センター「賢治と音楽を楽しむ会」の2周年を記念して紹介することにしました。

「構成」

ポラーノの広場は宮澤賢治の短編小説(童話)。賢治が亡くなった翌年(1934年)に発表され、博物館で働くキユーストと農夫の子ファゼーロ少年たちが伝説のポラーノの広場を追い求め、ついに自ら理想の広場を実現するまでを描いた作品で

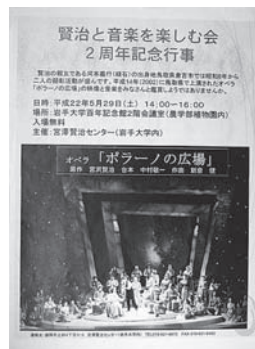
す。第一幕 プロローグ・キユースト氏の書齋、(逃げたヤギ)、(つめくさのあかり)、(山猫のパーティー)、第二幕 (警察署)、(セングード市の毒蛾)、第三幕 (再会)、エピローグからなります。原作・宮澤賢治、台本・中村敬一、作曲・新倉健

「河本義行」明治30年(1897) ~昭和8年(1933)

河本義行は俳号を「緑石」と称する俳人、詩人であり、倉吉農学校で教師を務めました。保阪嘉内と同級生。スポーツ万能で、水泳、陸上で活躍し、柔道・剣道の有段者。少年時代から俳句を始め、萩原井泉水に師事し、季題無用、十七音否定を唱える自由律俳句を始めます。「アザリア」誌でも俳句を中心に作品を発表。36歳の7月、海水浴場で溺れた同僚を助けるために海に飛び込み、不慮の死を遂げます。倉吉では「アザリア」の同人たちを思い、緑石の芸術運動を引き継ぐべく、毎年初夏に「アザリアのまち音楽祭」を28年間実施してきました。

「オペラ上演は鳥取の人たちの手でなされた」

脚色・演出の中村敬一氏、作



曲の新倉 健氏をはじめ鳥取オペラ協会のすべてのスタッフ、キャストの皆さんが賢治の作品を自分のものとして、演じられました。演出は原作を忠実に追いつながり、賢治の他の作品も取り込まれています。産業廃棄物が山積するステージの枠を設定し、輝く星空、現代的な都市の景観、田園の風景を交錯させています。音楽はオリジナルな美しい旋律に賢治の歌曲のメロディーを組み合わせ、ソリストの熱唱と力強い合唱力で聴衆を魅了します。鳥取の皆さんが力を合わせて成功させました。

「鑑賞会を終えて」

5月29日(土)16:00~18:00、岩手大学農学部植物園内にある百年記念館2階の会議室で行われました。大きなスクリーンに液晶プロジェクターで投影し、この3月に購入した「ポーズ」で音声を再生しました。参加者は22名で一同、鳥取の人たちの新しいものを作り上げようとする迫力に感動しました。賢治の

ふる里である岩手でも皆で力を合わせ「ポラーノの広場」を追い求め築き上げていきたいと思えました。上演にあたっては準備をされた幹事の姉歯さんほか皆様に感謝します。今後も「賢治と音楽を楽しむ会」に多くの人が参加され盛り上がるよう祈念します。

(岡田幸助 記)

オペラ「ポラーノの広場」映像を鑑賞して

まさに、感動的でした。プロローグの音楽に導かれ、輝く星空と「つめくさの灯り」、明るく深い田園風景と風。光と音のページェントにまたたくまに引き込まれ、イーハトーヴォの「ポラーノの広場」を探しに、一緒に行くような感じでした。

各パートでのソリストの素晴らしい熱唱や、広場をめぐる「行こう、行こう」の合唱は、演出や装置、照明と共に、最高の感激でした。特に三幕の「本当のポラーノの広場をみんなで作ろう」の大合唱は、オペラの極みです。

山猫など小動物の世界をかりて、役人等を諷刺するのは賢治

童話の特色ですが、賢治はいつも一方だけを批判したり否定することはありません。いわゆるイーハトーヴォの自然と人間、そこから生まれる様々な現象を童話として暗くなく、おおらかに、おもいやりのあるユーモアで、楽しくふくらませているのだと思います。

このオペラ「ポラーノの広場」が、倉吉市の国民文化祭で上演されたことは、昨年、岩大の「アザリアの咲くとき」展で知りました。その映像をこのたび鑑賞できたことは、とても感動的であれしく思っています。しかもこのオペラは、盛岡高等農林学校での「アザリア」の同人、河本義行の顕彰活動が出身地鳥取県で行われる中で公演されたと聞きました。

賢治の友人でもあるアザリアの仲間が、山梨や鳥取、栃木で現在も大切に顕彰され、アザリアの名と共に連帯して、その行事が催されていることに限りない感動を覚えるのです。

(照井時彦 記)

鳥取県倉吉市で製作、上演された「ポラーノの広場」のDVD鑑賞会に参加しました。賢治童話の子ども劇はありますが、

オペラの上演はあまりないことでもあり、地方の一都市でどれ程のことができるだろうと、実は半信半疑でもありました。

上演が始まって驚きました。これは半端端ではないぞと。原作に忠実にストーリーが展開され、ソリストや合唱の歌唱力や表現力、管弦楽の演奏に魅了されてしまいました。そしてまた、「ポラーノの広場」のテーマは現代に通じる永遠のもの

随筆 賢治と聴く音楽

岩手大学の農学部、北水の池の辺にある百年記念館で、月に一度、「賢治と音楽の会」が催されています。これは賢治がおそらく聴いたであろうシンフォニーのレコードを、懐かしいSP版で聴いてみよう、レコード通の二人の先生方によって二〇〇八年四月に始められました。

賢治はかなりのレコードマニアであったようです。或る時、花巻市内のレコード店の売上げ成績が良好のために、会社から表彰されたのですが、その購入者の大半は賢治だったそうです。花巻農学校時代の給料はそれに消えたとか、支払者は父親だったとか言われています。これらの音楽がどれほど賢治の創作意欲をかきたて、心を潤すものであったかは想像できます。

会場の百年記念館は、旧農専時代の古めかしい館ですが、室内はしゃれたレトロな造りで、窓を開けて音楽を聴いていると、小鳥の囀りが混じり、それは心地よい至福のひとつときです。

十二月の例会は、ベートーヴェンの「第九交響曲」を聴きました。担当者によって選ばれた五種類のレコードの、第三楽章のはじめを各数分ずつ聴きました。なぜ三楽章かというと、天国のような清らかなを経て、四楽章の歓喜の大合唱に続くこの曲の神髄であるからということでした。いづれ劣らぬ名盤で、ベーム、ワルター、小沢、フルトベングラー等

改めて思いました。

賢治の学友、河本義行につながる倉吉市では、毎年夏に「アザリアのまちな音楽祭」を二十八年間も実施しておられるとのこと。翻って地元盛岡は消極的で、私の知るところでは、昨年岩手大学合唱団の定演で、「永訣の朝」(鈴木憲夫作曲)の名演奏がありました。岩手でも、賢治作品を様々なジャンルで取り組む試みができないものかと

菊池 節子

「ウアーみんなさききたい」と思う盤ばかり。その後、皆の希望によって、フルトベングラー指揮を全曲聴きました。一九五一年、終戦後初のバイロイト音楽祭のライブ録音によるものでした。ソプラノ独唱がシュワルツコップとあつては言うことなし。二時間あまりじっと瞑想したり、自由な体勢で、映像ではなく、ただ音に集中して身を委ねていられるのは、音楽が好きならばこそ。今日の忙しい世の中では得難い経験というべきでしょう。であればこそ、遠くは名古屋から、又、県内各地から来られる方が居られることも頷けます。

これ迄、インターネットで取り寄せたものを含め、名曲名盤の数々を聴かせて頂きました。また、賢治の詩や童話の朗読もありました。レコードを聴いている時は、賢治がここに居て、一緒に聴いているような気がしてきます。だから「賢治と音楽の会」なのです。

一周年記念行事として、紫波町の「あらえびす館」で、米国製の名機、ビクトロラ・クレデンザ(一九二〇年代)で、ベートーヴェン「交響曲第七番」、トスカニーニ指揮を五枚のSP盤で聴きました。野村館長さんが自らレコードを返し針を落とすこと九回。SP盤の醍醐味を堪能しました。

SP盤で聴いていた賢治は、このように何度もレコードを返しながら主體的に音盤に関わり、音楽を楽しんでいたのだらうと思うと、一層親しみが湧いてくるのです。

音楽のノイズといはし賢治の忌 節子

(俳誌「樹氷」二〇一〇年三月号)

思わされたことでした。

(菊池節子 記)

「賢治と音楽を楽しむ会」 2周年記念DVDオペラ 「ポラーノの広場」鑑賞会 に参加して

私は岩手大学の「宮澤賢治センター」の一員として、毎月定

例会後「茶話会」のお世話をさせて頂いております。「茶話会」では定例会の後に、尚一層興味深いお話を伺いながら、毎月菓子や果物、飲み物の手配を考え、工夫をこらし、参加の方々に少しでも喜んで頂ければとの思いで取り組んでまいりました。

また、「賢治センター」での「短歌の集い」にも参加させて頂き毎月作歌しております。

今回、百年記念館で行われた2周年記念のDVD鑑賞会に参加し、帰路賢治さんの像を観ながら、感想文代わりに感じたまま短歌を作りました。

一、静寂な記念館に鳥の声植物園の青のなかから
一、ポラーノの広場のオペラの映像に引き込まれし胸の熱きを

(小菅アイ 記)

オペラ「ポラーノの広場」 (倉吉市)を鑑賞して

賢治ファンによる微笑ましい学芸会?などと思つたら大間違、正真正銘の感動的な本格オペラでした。

まず、舞台美術の素晴らしさ。幕が上がると、「広場」を探しに行く夕暮れの空のような深い青、「つめ草のあかり」を灯す野原の土のような茶色の二色を基調にした巨大な道具が淡い月光に浮かび上がります。

もうそれだけで、この城門のような装置はどんな世界への入口なのかしらと誘い込まれ、そのまま語り手キューストの包容力のあるバリトンに耳を傾けました。少年ファゼーロ役の女性の澄んだ歌声と生き生きとした表情、ミローやロザーロの美しいアリア。山猫博士のユーモラスな贗紳士ぶり、モーツァルトとロッシーニを足し合わせたような三人床屋のコミカルな掛け合い。

圧巻はやはり「ほんとうの広場」を探しあて、産業組合に希望をかけた村人の全員コーラスが歌う「ダースコダーダー」の地響きのようなリズムと熱気。土から生まれたアカペラとロックとギリシャ劇と剣舞が融合したような宇宙的な共鳴音につられて思わず目が潤み、余韻がいつまでも耳に残りました。素晴らしい作品を本当に有り難うございました。

(松元季久代 記)

宮澤賢治記念短歌会報告

会員 北田まゆみ

宮澤賢治記念短歌会は平成十八年七月創設以来一回も休むことなく、毎月一回主に土曜日の午前に開催されています。盛岡大学学長の望月先生主宰のもと、固苦しくない歌会方式をとっています。先生の「短歌の技量を上達させるといふより、短歌と戯れながら、短歌への違和感を減少し、楽しみながら賢治へのアプローチの幅を広げる」と言うお言葉に甘えて、毎回やかな雰囲気の中で自作の歌を鑑賞しあっています。

今年度最初の会合は四月十七日土曜日午前十時より吉田直美さんの当番で開催されました。毎回のことですが、歌会の始まる前の十五分間は望月先生による賢治短歌についてのミニ講義があります。四月の会では、昨年八月八日、宮澤賢治学会イーハトーブセンター主催による「賢治短歌の魅力を探る」と言うメインテーマで夏季特設セミナーが開催されました。その中で望月先生が発表された講話「賢治短歌出版期とその背景（石川啄木との関連など）」について当日の資料を参考に、

「短歌出版期の不確かさ」「短歌の重要性」「短歌の質」「結合比喩の成立」「右歌稿ハ発表ヲ要セズ」の取上げ方」など短歌考察の基本的論点五点を上げると共に「啄木と賢治」「アザリア」における賢治の位置」についても興味深い有意義なお話を聞くことが出来ました。

また五月の会では北田まゆみの当番で、引き続き夏季特設セミナーより、歌人の佐藤通雅氏による基調報告についての資料の読みと説明が行われました。こうして少しずつですが先生の賢治についての貴重なミニ講義を受けることで、一歩一歩賢治に近づいていると言っています。それでは今回も四月と五月の短歌作品の中から、会員皆さんの自選二首をご紹介します。

姉齒武司

四月・黄砂降り（おり）し墓石を洗い半年の家族の無事を父母に報告（つた）う

五月・水仙の寒気の中にもスッキリと立ちし花々清しきすがた

阿部真紀子

四月・一輪草百本咲いても一輪草一人静はいつぱいでも一人
五月・秘湯とは人手の足りない山の宿温泉卵が店番してる

北田まゆみ

四月・せめぎ合うことの一つに味加減塩ひとつまみを加うか否か
五月・夕餉済み今日一日の片づけを終えて私のそれからその後

小菅アイ

四月・天窓に射す光芒に浮遊する塵あり春の近き感じす
五月・雲動く影が水田にうつろひて蛙の声を久々聞く

佐藤静子

五月・母の死と向き合うこと無く過ぎし日々贖罪のごと選ぶ「母」の字
五月・生と死の間（あはい）はかくも優しかり「舅（ちち）の死に詠む 母もまたかく

田村依江

四月・春の池鯉はいるかとおきな児は覗き込むなり引く手思わず
五月・今日は又つくしはこべが満ち満ちて陽当る土手の春は進みぬ

望月善次

四月・胸はつて打ちそこねたる言い訳をすればなんだか啄木となる
五月・どこまでも空の青さを吸うようにあなたへと飛べ紙の飛行機

吉田直美

四月・播磨坂桜皆愛で酌み交わし一本左へ久堅町へ
五月・チヨコラスク口に含んで約束の優しさとこの身勝手囁る

宮澤賢治センターからのお知らせ

賢治生誕110年の年である、2006年の開学記念日（6月1日）に、宮澤賢治センターは設立されました。

宮澤賢治に関心があり、広い

意味で岩手大学にご縁のある方であれば、どなたでも会員になることができます。

会費は、当分徴収しません。会員には、宮澤賢治センター通信をお送りしています。どうぞ会員になって下さい。ホームページより、入会を受け付けています。

宮澤賢治センターのホームページは岩手大学ホームページのトップページにリンクされていますが、賢治と岩手大学との関係についてはやはりトップページにリンクされている「まるとデジタルミュージアム」で紹介されています。昨年6月に開催された岩手大学創立60周年記念展示「アザリアの咲くとき」の成果を日本全国に公開すべく、構築されたものです。

賢治のほか、盛岡高等農林学校時代に発行した文芸同人誌「アザリア」の仲間達（保阪嘉内、河本善行、小菅健吉）についての簡潔な説明があり、賢治が在籍した当時の様子を偲ぶことができます。

宮澤賢治センター通信第10号は11月に発行を予定しています。会員の投稿を募集します。原稿の長さは本文800字程度。原稿の締切は、10月末日です。

特集

岩大生にとつての宮沢賢治

私は昨年秋から岩手大学で「日本の文学」(宮沢賢治入門)を教えているのですが、このたび学生に「私にとつての賢治」というタイトルで作文を書いてもらいました。その一部をここに紹介します(佐藤 竜一)。

農学部農学生命過程

一年 齋藤 志杜香

私にとつての賢治は以前から「雨ニモマケズ」でした。なぜなら、父が「雨ニモマケズ」が好きで幼い頃から読み聞かせられていたからです。

そして、私も「雨ニモマケズ」にあるような立派な人間になりたいと考えるようになりました。その点から言えば、賢治は私に人生の指針を示してくれた人だと言えます。

「日本の文学」を大学生になって受講したことで、賢治に対する私のイメージにも変化がありました。賢治はその短い人生の中で何度も職を変えています。

これは、賢治は迷いながらも自身の人生の意義を探していたように私は思います。

人間は皆人生においてその意義を探しますが、大抵の人が挫折し挑戦を諦めるものです。こ

の点において賢治は人間らしい人生を精一杯生きたと思えます。私も賢治のように最終の理想の「雨ニモマケズ」のような人になりたいです。

農学部農学生命過程

一年 佐々木 彩香

最近まで、私は賢治の作品をほとんど読んだことがなかったし、賢治については何も知らなかった。漠然とイメージは持っていたが、貧しい、暗い、自然や動物が好き、作家一筋というものだった。

しかし、講義を受けて賢治に対する見方が一八〇度変わった。まず賢治が資産家の息子だったことが意外だったし、東京にაცოგაれていたこと、友人に冗談ばかり言っていたこと、石や音楽など多方面に興味を向いていたこと、すべてがイメージと違っていた。

賢治の作品をいくつか読んでみたが、動物と人間が話している、描写が幻想的だったりして、まるで不思議な夢を見ている気分になった。比喩が独特で理解が難しいこともあり、賢治は他の作家とは全く違う感性を

持っているという印象を受けた。わが道を行く人、というのが今の私にとつての賢治のイメージだ。

農学部農学生命過程

一年 立崎 綾乃

幼い頃の私にとつて、宮沢賢治は憧れでした。賢治の作品に出てくる自然の描写がとてもしアルで、どうすれば賢治のようなきれいな風景が見られるのだろうと不思議に思ったのを覚えています。

私の賢治への感情が変わったのは、賢治が盛岡高等農林学校を卒業し、冷害の影響で苦しんでいた農家の人々を助けようと懸命に働いたことを知ったときです。私も冷害や気候変動の影響で変化する日本の農業をどうにかしたいと思っていたので、私の歩みたい道は賢治の歩んできた道と似ていると思えました。

そして賢治は私が自分のやりたいことを見失わないための道標になると確信しています。農家は今、環境面、経済面から危機に陥っています。私は今まで日本の食を支えてきた彼らを賢治以上に支えたいです。

以上より私にとつての宮沢賢治は私の道標であり、追い越したい目標となる存在です。

農学部農学生命過程

一年 吉田 美織

私と宮沢賢治の出会いには幼稚園の頃で、父が買ってきてくれた絵本の中に彼の作品がありました。その中でもお気に入り「猫の事務所」と「セロ弾きのゴーシュ」でした。私は幼な心に賢治の作品はどこか悲しいと感じました。かま猫は悲しい、ゴーシュも悲しいのだと思ったのです。

私にとつての宮沢賢治は童話作家のうちの一人という印象が強かったです。彼がベーターペンを真似て撮ったあの写真が思い浮かびます。あの写真からは、寡黙で気難しいという印象を受けました。

しかし、この「日本の文学」の講義を受けてその考えは変わりました。私が感じた印象は、さまざまな顔を持つ宮沢賢治という人物の一つの顔にすぎないのです。賢治は知れば知るほど、興味深く、わからなくなる人物です。さらに賢治を知ること、少しでも彼の内面に迫れたらなと思います。

農学部応用生物化学課程

一年 田澤 茉歩

私は賢治の童話があまり得意ではありませんでした。独特の世界観や方言を多用する文体

が、小学生の私には難しかったのです。この講義を受けるようになって、賢治の作品をいくつか読み直してみると、方言の部分は未だにわかりにくかったものの、とても楽しむことができました。深くすきとおるような風景や登場する動物たちの細やかな仕草の描写を特に好きだと感じました。

しかし、賢治の人物像に、私はあまり好感を持てずにいます。童話だけでなく、音楽や詩なども作り、興味の幅も広い多才な人物であるのは素晴らしいことですが、転職もやむを得ないことであつたのもわかりませんが、どうしても彼は中途半端な気がしてしまうのです。とは言え、そういう自然や芸術へのさまざまな方向からのアプローチが賢治らしさを生んでいるのだろうとは思っています。

農学部応用生物化学課程

一年 星 佳織

賢治は興味本位であらゆることに手を出してみても、すぐに興味の方向を変えていく、カメレオンのような人間だ。

落ち着かない人だと思う一方、私は彼に一途さを感じる。賢治は確かにあちこちに気をやってしまうが、興味を向けたその方向に、一直線に、おそら

くは常人の何倍ものスピードで進んで行くから、中途半端では終わらない。必ずその道の専門家であるかのようなレベルにまで達してしまう。そこが賢治のすごいところだ。

私にとって、賢治は今やあこがれになりつつある。私も彼のように、興味のおもむくまま、全力で進んでいけたら、さぞや楽しかろうと思う。またその興味が、ただ利己的なものでなく、自己満足で終わるものでなく、周囲の人間をそろって幸福にさせるようなものであれば、賢治と同じだ。そういうものになれたら、人生がもっと明るくなりそうだ。

農学部共生環境課程

一年 高野 涼

宮澤賢治にゆかりのある大学なので、私は岩手大学を選びました。宮澤賢治の書いた本を読んでも、もっと賢治について知りたいと思ったからです。

「銀河鉄道の夜」にある「何が幸せかわからないです。たとえどんなにつらいことでも、それが正しい道を進む中でできごとなら、峠の上りも下りもみんな本当の幸せへと続く一足ずつですから」という台詞は、受験勉強をつらくないものにしてしま

賢治は幸福の本質を感じていて、作品の中でそれを伝えたかったのだと思います。そして賢治の人生を知ること、彼のメッセージがただの思いつきでなく、深いところからわきあがってきたものだと想像します。

私がこれからどんな道に進むにしても、幸福について考えていきたいです。苦しいことを含めさまざまな経験をして幸福について考えた、私にとって賢治はそんな人です。

農学部共生環境課程

一年 中村 和作

私はアカペラサークルに所属しており、芸術の一つとして歌唱をたしなんでいます。文学界における賢治の名はあまりに有名ですが、音楽の世界においても賢治は活躍しています。

賢治はベートーベンなどの洋楽をたしなむうちに、自ら作詞と作曲を手がけるようになりました。賢治の文学作品の演劇で、よく流れる「星めぐりの歌」は、おだやかで優しく、美しいメロディーです。賢治は演劇にも力を入れ、自らチェロやオルガンを習うなど、作品のためにはどこまでも熱心でした。こうして改めて賢治を評価すると、彼は芸術というものに對

し、多面的に取り組み、芸術とは何かということを探求していたのではないかと思います。私も芸術をたしなむ一人の芸術者として、彼の芸術探求にかけた熱意を見習い、私の人生の先輩として、彼の全てを吸収したいと思っています。

農学部動物科学課程

一年 小形 南

この講義を受けるまで、私にとっての宮澤賢治は単なる一童話作家でしかなかった。岩手大学農学部に進学し、彼の先輩となったことで、宮澤賢治という人物について知りたくなった。

講義を通して触れる賢治の姿は、私が今まで抱いていたイメージとは大きく違い、毎回新鮮な驚きを感じる。たとえば、サラリーマンとしての賢治や音楽家としての賢治の姿である。多方面にわたる豊富な知識や懸命な努力、そして才能は、彼に短くも濃厚な人生をもたらしたことだろう。私が彼に抱いていた印象で唯一正しかったのは、生涯を他人のために捧げた姿だ。時に哀れに感じてしまうほどの自己犠牲の精神は、私の目には彼の優しさとして映っている。賢治のような生き方は、人としてとても美しいと思う。

農学部動物科学課程

一年 小林 美香

私にとっての賢治は、この講義を受けるまで童話を書いたり農業をしたりした人くらいのイメージしかありませんでした。

しかし、賢治について多少学んだ今は、彼の何にでも挑戦する力と行動力に尊敬の念を抱いています。楽器に挑戦したり、作曲してみたり、農業をしたり、サラリーマンになったり、三十年ちよつとしか生きていないのに、こんなにも多くのことに挑戦したなんて驚きです。たぶん私は百年生きたとしても、賢治のように密度の濃い時を過ごせないと思います。

あと、石が好きだったということにも親近感を覚えます。私も賢治ほどではないけれど、よく石狩川の河原に石をひろいに行くくらい石が好きです。童話作家として有名な賢治だけでなく、一人の多趣味な人間としての賢治にも、たくさん魅力があると思います。

農学部獣医学課程

一年 渡嘉敷 美波

私にとっての賢治とは、少年です。それもとびきり感受性が豊かで繊細な、頭の良い少年です。賢治の物語が持つ独特な、妙にすっきりしない読後感か

ら、皮肉な厭世家に違いないと、そう思っていたのですが、講義を受けてから印象が変わりました。

賢治ほど、自分の体験に忠実に物語を書いた人がいたでしょうか。つらかったこと、驚いたこと、好きだったこと。彼の物語には、彼が感じた色々なことが大事に保管されているのだと思います。まるで少年のように無邪気に、色鮮やかに。

だからこそ、彼の言葉はこんなにもまっすぐに私たちの胸に届くのではないのでしょうか。彼がかつて足かせに感じていた方言も、今はありのままの彼を表現してくれる、まぎれもない長所に違いありません。

ただの作家ではなく、生きた賢治としての印象を持ったことを、私はうれしく思います。

工学部福祉システム工学科

四年 大沼 雄平

私にとっての賢治とは、幼い頃からの隣人であった。実家の本棚には、日本の童話シリーズの中で芥川龍之介の「トロツコ」の隣に置いてあった。初めて一人部屋をあてがわれた際、眠れない夜に開いたのが宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」だった。当時の自分にはその話は単純に数ある物語の一つにすぎず、練

り返して読むような作品ではないと思っていた。

しかし、講義を受け、賢治の人となりや境遇、文学作品としての価値を学ぶにつれ、子供の頃のような純然な楽しみとしてはなく、その作品から感じるさまざまな切なさや悲しみ、賢治の信念を感じ取ることができるようになった。

自分の中の賢治の作品はもはや、子供の頃のような楽しいだけの作品ではない。人生の楽しみも悲しみも教えてくれる隣人となってくれるだろう。

工学部情報システム工学科
四年 松本 龍洋

私にとつての賢治は、童話や小説を自分の独自の感覚でいて、自己犠牲の精神や努力の素晴らしさを教えてくれる人生の先輩です。

裕福な質屋の長男として生まれるも、困窮した農民相手の商売に反発し、

「質屋だけは嫌だ、自分もたとえみんなにほめられなくても、世のため、人のために生きる人でありたい」と。

童話作家、教師、農民とさまざまな生き方を探しながら、最期にはサラリーマンとして、貧しい土壌に住む農民を救い、工場に働く人々を助け、「グス

コープドリの伝記」を完成させました。病魔と闘いながらも、精一杯自分のできることをやりとげ、一生懸命に生きたことが童話に生かされています。

私は特に「よだかの星」が好きで、何でも自分の力を精一杯出して頑張れば、きっとなんとかなる、いつも思い出しています。

工学部材料物性工学科
三年 成田 佑基

私にとつての賢治は、すごい変わり者です。賢治が「石っこ賢さん」と呼ばれるくらい石好きであったり、共感覚を持っていたかもしれない、という今日の授業からそう感じました。

私は工学部で、色々な鉱物を知っていますし、興味もありますが、それは私の専門分野だからこそであって、中学生の頃からわざわざ、岩手山のような高い山に鉱物を採集しに登ったりするほどではありません。

賢治がその興味(趣味)を生涯を通して持ち続けたということが、すごいを通り越して変わっていると感じたのです。世界を見てみても、すごい人というの、ちょっとではなく変わった人が多いのだということ改めて思わされました。

教育学部学校教育課程学校教育
一年 笹 園香

私にとつての賢治は、賢治を知らなければ知るほど変わっていく。賢治は小説家としてではなく、音楽のことや鉱物に関してなど、幅広い知識を持ち、多くの顔を持つている。多くのことに興味を抱き、実行に移し、吸収していく賢治の姿は、現代の若者にはない精神と行動の持ち主である。私は、賢治は私たち若者にとつて目指すべき象徴なのではないかと思っている。

だが、私にとつての賢治はそれだけではない。賢治という人物はとも変幻自在でミステリアスであり、私に憧れや尊敬の念だけではない不思議な気持ちを抱かせる。賢治の作品はとももファンタスティックで幻想的なのに、時折哀愁に満ちたひどく自己犠牲的な愛が見え隠れする。

だから、私にとつての賢治は、すぐに一言では言い切れない、つかみ切れない存在として常にあるのである。

教育学部学校教育課程学校教育
一年 菅野 義郁

今まで私の中で賢治とは、岩手の作家で不思議な表現を使うことしか知らなかった。

しかし大学に入り、授業を受

けることで、新たな一面を見つけてくるのができた。その中でも一番印象的なのは、賢治が建築と音楽に興味があったということだ。農業や科学に興味があるのは知っていたが、まさかそんな分野にまでということ、意外性と驚きを隠せなかった。

私は賢治は本当の意味での哲学者だと思いません。昔どこかで話を聞いたことがあるのですが、ニュートンなど過去の哲学者はさまざまなジャンルで、片寄らず、広く深い知識を持っているみたいです。私はその話から、賢治こそが作家であり、哲学者ではないのかな、と思います。

大学はこの授業で賢治の新たな一面性、いや多面性を見つけた。私にとつて宮澤賢治とは、読書への関心を持たせてくれた大好きな作家の一人です。小学校低学年で「注文の多い料理店」を読み、彼の童話の持つ不思議な魅力に魅せられ、賢治作品を読むようになりました。

高学年で読んだ「銀河鉄道の夜」は、現実から非現実の世界への移動がスムーズで実際にもう一つの世界があるのかもしれないと思いました。その他の作品も、賢治独特の表現や、方言の多用により童話なのに現実味が有り、登場人物が生き生きとしています。

教育学部特別聴講学生
陳 斐(ぶん)

宮澤賢治は孤独な植木職人だと思う。彼は自分の庭で働いており、さまざまな幻想にふけつた。寂しさを持ちながら、頑張り続け、自分の素晴らしい魔法の世界を作った。

子供にとつて、その魔法の世界とは童話の世界であろう。しかし、賢治の作品はただの童話ではないと思う。「銀河鉄道の夜」を例にすれば、孤独な主人公ジョバンニは賢治自身のことではないか。この作品は妹のトシが死んでからの作品だったので、列車の中で主人公が「さみしい」と言ったのは賢治が寂し

かったからではないか。「銀河鉄道の夜」は賢治の心の現れで、美しく悲しい物語である。

「銀河鉄道の夜」の中で、賢治は主人公とともに幸せの真義を探した。彼はいつも人の幸せのために働いていた。名の知れぬ人だった賢治は、たぶん皆に自分の庭に入ってもらい、それから幸せになってほしかったのであろう。

教育学部特別聴講学生

蘇 嬌

日本に来てから、宮澤賢治の作品を最初に読んだ。非常に新鮮な、普通の本とは違った印象を受けたことを覚えている。賢治は他の人には真似ることのできない独特の文章を書いている。

賢治は童話作家といわれるが、それが賢治という人の定義にはならない。賢治の場合、文学だけでなく、宇宙・地質・農業といったようにさまざまな分野を深く学ぶ。しかし、そんならバラバラではなく、統一された知識になっている。

宮澤賢治の音楽について書かれた文章を読むと、自国の童話が思い出せる。国籍は別々といっても、その音楽体験は大体同じなのだ。私にとって、たい

へん近い存在に感じられてならない。

私にとっての宮澤賢治は、隣にいるような不思議な国に生きている天才のような存在だ。

教育学部特別聴講学生

陳 文娟

私にとっては、賢治は星の子さまのような存在である。この荒涼たる世の砂漠の中で、愛や生命の本質を忘れた現代人の私に、愛の純粋と責任を教えてください。

賢治は普通の人の見えない世界をしっかりと書き続け、これまでにないこの世の可愛さを描いた。一番好きな作品は「雨ニモマケズ」である。詩を通して、デクノボーになりたい賢治は、どんなに勇敢な人であろうと感じた。

多くの人々はそのような人間になろうとしても、つい世間からの眼差しに負けてしまう。賢治の得難いところはエンジェルのような心を持っていることではないか。世間の悲惨を心に込めて、地上に足をしっかりとつけたのだと私は思う。

賢治の世界はまだよくわからないが、これまでの出会いでもいろいろとありがたい思いを与えてくれた。

人文社会科学部国際文化課程

三年 田中 俊平

私と賢治を最初に結びつけてくれたのは、叔母だった。叔母が買ってきてくれた「銀河鉄道の夜」が、賢治を知るきっかけとなった。小学二年の頃である。ジョバンニの孤独やカンパネラの死という結末が強く印象に残った。銀河を走る鉄道という物語の世界や美しい水の描写。まだ幼かった私にとって、私の中に浮かぶイメージは鮮烈なものだった。

私はすぐにこの作品のとりこになり、もつと賢治の作品を読みたいと思った。以後、「風の又三郎」や「よだかの星」などの作品に触れるにつれ、今度は彼自身のことを知りたくなった。彼がどんな考えを持った人物であったのか。十数年前の賢治作品に触れたという経験が、現在の私につながっていることはなかなか感慨深い。

人文社会科学部国際文化課程

一年 牛崎 想也

私は生まれが花巻であり、両親が賢治に関する仕事に就いていることもあって、常に身近に賢治がいる人生を送ってきた。小学生時代にはやや難しかった賢治の作品も、中学、高校と上がるにつれて理解できる

ようになり、それと同時に賢治が目指した世界全体の幸福を求める生き方にも深い感銘を受けました。

さらに、賢治の人生が決して平坦ではなかったことにもとても共感できました。自分の作品がなかなか売れなかったこと。弱い農民たちの味方になったこと。そして若くして死んだこと。今こうやって賢治の作品が世に出ていることを、彼は知ることができない。そのことがとても残念でなりません。

私にとって賢治は、地元岩手の偉人というだけではなく、人生の先輩であり、私をここまで育ててくれた父親のような存在です。彼のようなまっすぐな人間になりたいです。

人文社会科学部国際文化課程

一年 横田 蚩

私は大学生になるまであまり賢治に触れてこなかったが、講義を受けるうちに賢治の多様な側面を知ることができた。その中で、賢治に強い共感を持った部分がある。それは、都会への憧れと故郷への思いである。

賢治は岩手の地に生まれたが、東京に憧れ、何度も上京している。しかし、東京では方言が通じず、強いコンプレックスを抱くことになった。私もこれ

と同じような経験をしている。生まれ育った小さな村の外に憧れたが、いざ外の世界に出てみると驚くことばかりで、なじむのに苦労したのだ。

だが、賢治は結局岩手に戻り、故郷を舞台にした優れた文学作品をいくつも執筆した。このことから、故郷を離れてはじめて見えてくる良さがあると気づいた。

自分が故郷を愛していると気づかせてくれた賢治に感謝している。

編集後記

▽新たに、編集を担当することになりました。老若男女に広く親しまれている宮澤賢治について、オープンで多面的に発信していけたら、と思います。今号では、岩大生が賢治をどう思っているか、特集してみました。どうぞ感想や意見をお寄せ下さい(佐藤竜一記)。

宮澤賢治センター通信

○発行

〒02018551

盛岡市上田四丁目三番五号

電話 〇九六二二六六七二

FAX 〇九六二二六四九三

E-mail:kenji@wateru.ac.jp

HP: http://kenji.gcs.wateru.ac.jp/

宮澤賢治センター(岩手大学内)

発行責任者 岡田幸助

印刷 杜陵高速印刷株式会社